

平成 26 年度 大崎市教育委員会 表彰式を挙りました

子どもたちのたゆまぬ努力と成果を讃えて

2月27日、大崎市民会館を会場に、平成26年度大崎市教育委員会表彰式を挙りました。

平成26年度中に、スポーツや芸術文化の分野で、宮城県大会や東北大会、全国大会に出場し、特に優秀な成績を収めた市内小・中学校の13団体と57人の個人、善行・篤行1人を表彰したほか、教育施設の充実のために寄附をいただいた、5組の個人・団体の皆さんに感謝状を贈呈しました。

受賞者を代表して、第20回全国都道府県対抗男子駅伝大会で、宮城県の第2位入賞に大きく貢献した古川南中学校3年の鈴木浩風さんが、自分を支えてくれた多くの人たちへの感謝の気持ちを込めてあいさつを行いました。様々な分野で重ねた努力とその成果は、これからの人生の大きな糧になるはずで。

受賞者は、広報おおさき5月号、市ウェブサイトで紹介いたします。



公営企業会計 の収入と支出 のあらまし

企業会計で行う病院事業と水道事業は、市民の皆さんが支払う診療代金や水道料金を主な財源として運営しています。どちらも、市民生活にかかすことのできない事業です。

企業会計は、「収益的収支」と「資本的収支」の2つに分けられます。「収益的収支」は、日常の経営に要する収支、「資本的収支」は、施設の建設や改良などに要する収支となっています。

なお、各表の資本的収支における収入額が、支出額に対し不足する額は、過去に収益的収支で蓄えられている資金(過年度損益勘定留保資金)などで補てんされます。

水道 事業会計



【収益的収支】

収入	当初予算額	構成比
営業収益	36億1412万円	95.2%
営業外収益	1億8046万円	4.8%
特別利益	0円	0%
水道事業収益	37億9458万円	100.0%

支出

	当初予算額	構成比
営業費用	34億4269万円	93.9%
営業外費用	1億9977万円	5.5%
特別損失	208万円	0.1%
予備費	2000万円	0.5%
水道事業費用	36億6454万円	100.0%

【資本的収支】

収入	当初予算額	構成比
企業債	2億6000万円	65.0%
補助金	7038万円	17.6%
負担金	4227万円	10.6%
他会計負担金	953万円	2.4%
出資金	1750万円	4.4%
固定資産売却代金	0円	0%
資本的収入	3億9968万円	100.0%

支出

	当初予算額	構成比
建設改良費	16億8106万円	80.5%
企業債償還金	3億9591万円	19.0%
予備費	1000万円	0.5%
資本的支出	20億8697万円	100.0%

病院 事業会計



【収益的収支】

収入	当初予算額	構成比
医療収益	188億5652万円	88.0%
医療外収益	24億6815万円	11.5%
特別利益	1億121万円	0.5%
病院事業収益	214億2588万円	100.0%

支出

	当初予算額	構成比
医療費用	214億8914万円	97.8%
医療外費用	4億7625万円	2.2%
特別損失	990万円	0.0%
予備費	1000万円	0.0%
病院事業費用	219億8529万円	100.0%

【資本的収支】

収入	当初予算額	構成比
企業債	3億3760万円	33.7%
負担金交付金	6億1025万円	61.0%
他会計補助金	5321万円	5.3%
長期貸付金返還金	0円	0.0%
固定資産売却代金	0円	0.0%
資本的収入	10億106万円	100.0%

支出

	当初予算額	構成比
建設改良費	4億6937万円	26.7%
企業債償還金	12億4301万円	70.9%
投資	3120万円	1.8%
予備費	1000万円	0.6%
資本的支出	17億5358万円	100.0%

※数値などは表示単位による端数調整を行っています。

市長コラム 天・地・人 大崎お米物語



♪米という字を
分析すればヨー

八十八度の手がかかる

お米ひとつも粗末にならぬ
米は我らの親じゃもの

宮城県の民謡「米節」の一節。お米づくりはたくさんの手がかかってようやく作られるという、お米に感謝する唄です。

4月、種まきや田んぼの準備など、今年も米づくりが始まります。しかし、今年の米づくりは、農家の土気が上がりにません。米価の落ち込みやTPP交渉の行方への不安などからです。

そのような中で、一筋の光明に思える期待の星が、ササニシキ系新品種米「ささ結」です。かつては、お米の「東の横綱」と称されたササニシキ。そのササニシキのあつさりとした食感を受け継ぎ、お寿司屋さんや、料亭、和食ファンに高い評価をいただ

いている「ささ結」が、いよいよ、今年から市場デビューします。すでに、市内、仙台、首都圏で大々的なPRと売り込みを計画しております。その「ささ結」を一層美味しく乾燥・貯蔵するための助っ人「古川カントリーエレベーター」も昨秋完成しております。

一昨年の和食のユネスコ無形文化遺産登録も追い風にして、インバウンド(海外観光客の誘致対策や海外販売戦略も視野に入れております。

身近な成功例として、鳴子の米プロジェクトの「ゆきむすび」が、東京都神田のおむすび屋さんや、赤坂の一流の鰻屋さんと契約する取り組みも始まっております。

美味しいお米を食べられる幸せと、日本の稲作文化を継承・発展させていくためにも、お米に感謝しながら食べ続けていきたいと思います！

大崎市長 伊藤 康志